

LSU KAH

渭水会々報

2024.9 月発行

Vol. 53



昭和30年代後半～40年代初期の徳島市

「渭水のほとりに」

関連記事→P6

明治7年(1874)5月1日、徳島大学総合科学部の前身である徳島師範期成学校が、旧徳島城西の丸の藩校「長久館」跡に創設されて150年。火災や戦火で移転した時期もありますが、師範学校～徳島大学学芸学部～教育学部～総合科学部と変遷を経ながら、渭水(助任川の漢名)のほとりで脈々と教育、人材育成を担ってきました。

発行：徳島大学渭水会(徳島大学総合科学部同窓会)



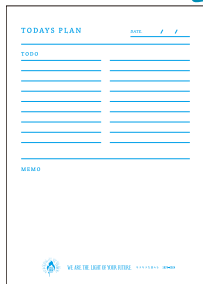
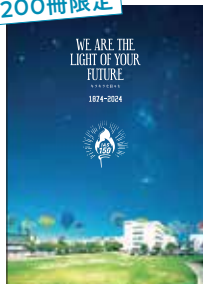
祝・徳島大学総合科学部創立150周年

渭水会オリジナル 創立150周年記念グッズで 総合科学部を応援しよう!!

総合科学部創立150周年を記念して、“徳島大学愛”あふれる記念グッズ第2弾を制作しました。ぜひご購入ください。
売り上げは、制作費を除いて全額、学部へ寄附し、150周年記念事業に充てていただきます。

キラキラな日々を **メモ帳**

200冊限定

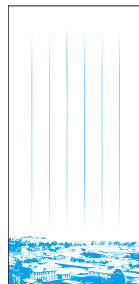


500円
(税込)

表紙は総合科学部のキャンパス。中身はToDoメモになっています。
毎日使ってキラキラな日々を創っていきましょう！
●A6サイズ。30枚綴り。

出藍之誉 **一筆箋**

200冊限定



500円
(税込)

「青は藍より出でて藍より青し」母校から大きく羽ばたいてほしい。そんな願いを美しい一筆箋にしました。中身は昔のキャンパスの写真を加工しています。●30枚綴り。

マカロン付箋

各色100個限定



左からブルー、ピンク、アイボリー、
オレンジ

付箋の形も
愛らしい

**1個
400円**
(税込)

まるでお菓子のマカロンのような可愛い付箋。ぷにぷにの
カバー部分に渭水会のマークをあしらっています。お好きな色
をお選びください。●80枚綴り。

150周年記念セット

1,500円
(税込)



「全部ほしい!」という方のために、メモ帳、一筆箋にマカロン
付箋2つをセットにしました。300円もお得です！
●マカロン付箋はお好きな色をお選びください。

ご注文方法

- ◆ご住所、お名前、ご連絡先（電話）、ご希望の商品と点数（マカロン付箋はご希望の色も）を事務局までお知らせください。
- ◆代金は商品発送時に同封しております郵便振替用紙にてお支払いください。手数料はご負担ください。
- ◆3,000円以上ご購入で送料無料となります。
- ◆お申込先：渭水会事務局 電話：088-656-7293 FAX：088-679-8485 E-mail：info@isuikai.jp

グッズ
第1弾

**クリアファイル
セット完売!!**

記念グッズ第1弾として200セット制作したクリア
ファイルは、おかげさまで完売しました。売り上げ
から制作費を除いた10万円を、2024年7月31日、
総合科学部に寄附しました。

≡ **SOLD OUT** ≡



目 次

渭水会オリジナル 創立150周年記念グッズで総合科学部を応援しよう!!

大学の社会貢献	渭水会会長 石井 博 ……	4
学部長からのご挨拶	総合科学部長 高橋 晋一 ……	5

特集 徳島大学総合科学部創立150周年を祝して

●150年のあゆみ	6	
●渭水会のあゆみと主な活動	9	
●わが青春時代	佐藤 豊	10
●わが青春時代 ～リーダークライスと総合科学部連～	田内 康之	12
●徳島大学総合科学部創立150周年記念式典等のご案内		14

連載⑥ パターン認知の心理をめぐって

●似ているパターンとは何か	徳島大学名誉教授 濱田 治良 ……	15
---------------	-------------------	----

連載⑪ 私の職場 My Workplace

●農業との出会い	坂東喜美代 ……	16
----------	----------	----

研究最前線⑫ マインドフルネスによる精神疾患の治療・再発予防・職場復帰支援に関する研究

徳島大学 大学院 社会産業理工学研究部 社会総合科学域 人間科学系 心理学分野 准教授 甲田 宗良 ……	18
--	----

常三島今昔④ ●タバコ吸い競争 …… 19

渭水会会長賞10回記念

●学びは続くよ、どこまでも	第2回渭水会会長賞受賞 公認心理師・臨床心理士 富永 美咲 ……	20
---------------	----------------------------------	----

輝く新星⑩ ～第10回渭水会会長賞～

●学生生活で身につけたことを社会で活かす	畑山 奈都 ……	22
●人と出会い、成長した4年間	元木まりあ ……	23
●2つの関心	中川 結稀 ……	24
●渭水会会長賞表彰要項		25

助成事業

●徳島大学音楽研究室 研修会 ～吉森章夫先生を囲んで～	新居 誠司 ……	26
●徳島大学地学教室 講演会	山口 由子 ……	26
●徳島県退職女性教職員の会 学習会	富田真由美 ……	27

総科ニュース …… 38

徳大ニュース …… 40

事務局だより・編集後記 …… 42



渭水会会長
いしい ひろし
石井 博

大学の社会貢献

大学の求められる役割は多岐にわたるが、私自身が体験した大学の講座をご紹介します。

2002年マラソン初心者を対象にした徳島大学開放実践センターのトレーニング講座「ホノルルマラソンを走ろう」が開講。仕事漬けで不健康な毎日を過ごしていた私は、地元新聞の記事でこのことを知り、直ぐに申し込んだ。半年前の人間ドックの結果説明で「このままの生活を続けていくと、そのうち具合が悪くなり入院することに。そのまま退院できないような危険性もあります」と厳しく指摘を受けた。このことが、苦手な長距離走へのチャレンジのきっかけになった。

私と共に初年度の講座に申し込んだのは86人。仕事や家庭の都合、その他さまざまな事情等でホノルルマラソン参加がかなわなかった方もおいでだが、55人が本番に出走。初心者にもかかわらず、手取り足取りのきめ細かな、そして親切かつ科学的なご指導で無事全員完走。

そのうちの一人として42.195キロに初めて挑み、走り終えた感動は、今までに味わったことがない特別なものだった。

午前5時。花火が上がり陽気な音楽とアナウンスが響く中、アラモアナ公園を約3万人のランナーに交じってスタート。波の音を聞きながらワイキキビーチを走り、ダイヤモンドヘッドを下った。沿道のボランティアが声をかけてくれるがスポンジを手渡してくれる。折り返してからは、対面するランナーたちと声援し合う。歩調を合わせるように走る老夫婦、一生懸命な子ども、伴走者と手をつないで走る障害のあるランナー。視界に入るすべてが励みになった。

レース前は不安で仕方がなかった。初心者にとっては気の遠くなるような長い長い距離を完走できたのは講座のおかげ。講座は「マラソン栄養学」「レースの組み立て」など、毎回、充実した内容。コーチ陣も多彩で、大学教授やマラソンの経験豊富な医師、大塚製薬陸上部の栄養士など、それぞれの立場で初心者に的確なアドバイスをしてくださった。

私は当初、長い距離を走りやすくするためにまず減量をしようと、食事を制限したが、講座の中の栄養チェックで「必要な栄養の6割しか取れていない。きちんと食べ、運動で減量すべきだ」とのアドバイスをいただき実践。半年の間に15キロの減量に成功した。トレーニングも歩くことから始め、徐々にステップアップ。私だけでなく受講生の多くが気がついたら長い距離を走れるようになっていた。

この講座は、始まって10年目の2011年にランナーズ賞を受賞した。この賞は「長年に渡り、市民ランナーとして模範的生活を送り、健康であることの喜びや、ランニングの素晴らしさを多くの人々に伝え、また仲間を作り、さらに地域の社会体育を考えていく、そのような地道で有意義な活動をされている人、団体、大会について、その功績をたたえる賞」として毎年2～3の個人または団体を表彰している。後の徳島のマラソンブームのきっかけとなり、日常生活の中でのランニングへの取り組みが大きな広がりを見せ、健康増進や生きがい作りに多大な貢献をした。

上記は、大学の社会貢献のほんの一例だが、私たちの徳島大学には、今後も学術を中心として高い教養と専門的能力を育ていただき、そして新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会全体の発展に寄与し続ける存在であることを願っている。

これからも引き続き同窓会組織として、徳島大学の真摯な取り組みを応援していきたい。

(昭和49年 教育学部中学校教員養成課程保健体育科卒)



総合科学部長
たかはし しんいち
高橋 晋一

学部長からのご挨拶

渭水会の会員の皆様には、日頃より様々な形で総合科学部並びに大学院の教育・研究・運営をご支援いただき、ありがとうございます。

2020年以来のコロナ禍も一段落し、学生が賑やかにキャンパスを闊歩する以前の風景が戻っています。3年あまりの「対面規制」の経験を通じて、われわれはフェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションの大切さについて、あらためて気づくことにもなりました。海外に留学する学生、海外から徳島を訪れる留学生の数もこの1年で急増し、一時停滞していたキャンパスのグローバル化がまた進み始めていることを実感しています。

さて、いよいよ今年（2024年）、総合科学部は1874年（明治7年）の徳島師範期成学校の創設から150年目の節目の年を迎えます。現在、学部と渭水会の連携のもと記念事業委員会・記念事業実行委員会を組織し、記念事業の実施に向けて準備を進めているところです。10月19日（土）には常三島キャンパスにおいて記念式典・記念講演会・記念祝賀会等の記念行事を開催する予定ですが、この日の行事は久々に学部の同窓生が集まる機会－ホームカミングデーの行事としても位置付けています。ぜひ多くの卒業生の皆様にキャンパスにお越しいただき、この節目をともにお祝いできればと思っています。

当日行事とあわせて、在学生の教育研究支援事業、キャンパス環境整備事業、地域連携事業、150周年記念誌（Web版）の刊行、ガレリア新蔵（新蔵キャンパス・日亜会館1階にある展示スペース）での

150周年記念展の開催、学部の150年のあゆみをまとめた記念パネルの作成等、多くの関連事業を実施いたします。なお、この機会に、学部の歴史を語る古い写真や資料等も収集できればと考えています。皆様のお手元に、もしこれはと思うものがございましたら、本学部の歴史を語る参考資料としてご提供いただければありがたく思います。

国道11号に面する正門から1号館に向かう途中の広場の緑（芝生）が少しずつ広がり、以前はなかったベンチやテーブルなどが置かれていることに気づかれた方もいるかもしれません。これも記念事業の一環として整備を進めているものです。また、1号館南玄関前には、本学部卒業生で彫刻家の武田亜希子さん制作の記念モニュメントを設置する予定です。学部の歴史、そして渭水会の歴史を語るシンボルがまた一つ新たにキャンパスに誕生することになります。

徳島師範学校、徳島大学学芸学部、教育学部、総合科学部…時代の流れの中で組織の名称は変わっても、その伝統の灯が消えることはありません。卒業生の皆様が築いてこられたこれまでの学部の歩み（歴史）をあらためて振り返り、しっかりと未来へつないでいくことが、今回の記念事業の実施にあたるわれわれに課せられた使命と思っています。今回の記念事業が実りの多いものとなりますよう、ぜひ皆様のご指導、ご支援をいただければありがたく存じます。今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。

徳島大学総合科学部 150年のあゆみ

創立150周年を祝して

徳島大学総合科学部は本年、その前身である徳島師範期成学校の創設から150周年を迎えました。師範学校～学芸学部～教育学部～総合科学部へと、時代とともに変遷してきた歴史を振り返ってみましょう。現在、記念事業の一環として、総合科学部学部和清水会が共同で記念誌(Web版)を編集しています。その一部を本誌でもご紹介します。

● 師範学校時代

和 暦	西 暦	月 日	事 項
明治4年	1871	7月14日	徳島県の設置(のち名東県・高知県となる)
7年	1874	5月1日	徳島師範期成学校が旧徳島城西の丸 藩校「長久館」跡(現・内町小学校付近)に創設される(入学者34人)
8年	1875	10月27日	徳島師範期成学校に附属の小学校を設置
8年	1875	12月2日	名東県師範学校に附属変則中学校(のちの徳島中学校)を設置
11年	1878	12月	高知県が徳島女子師範学校を富田浦(元勤工場跡・現 徳島市富田浜1丁目付近)に設置(明治13年6月30日に廃止し、徳島中学校附属女学校を設置)
13年	1880	3月20日	高知県から分離して徳島県を再置
18年	1885	2月10日	旧西の丸の徳島師範学校・徳島中学校の校舎が焼失
18年	1885	9月12日	徳島師範学校・徳島中学校が富田浦町に移転(現在の県庁舎付近)
22年	1889	10月1日	市制施行により徳島市が誕生(人口6万1,084人、全国第10位)
23年	1890	7月	徳島尋常師範学校に女子部を設置(入学者30人)
32年	1899	4月1日	徳島県師範学校が常三島の現在地に新築移転
41年	1908	4月1日	徳島県師範学校女子部を分離独立し、徳島県女子師範学校を設置(県立徳島高等女学校に併設)
41年	1908	4月15日	皇太子(のちの大正天皇)が来校し授業台覧
42年	1909	11月6日	師範学校卒業生による同窓会「渭水会」の第1回総会を開催
大正4年	1915	5月1日	師範学校40年創立記念式を挙行、『徳島県師範学校沿革略誌』を編集出版
11年	1922	10月20日	徳島高等工業学校(のちの徳島大学工学部)が常三島に開校
11年	1922	11月28日	摂政宮(のちの昭和天皇)が来校し授業台覧
昭和13年	1938	7月	徳島県女子師範学校の水泳指導に前畑秀子氏らが来校
16年	1941	7月22日	皇国主義教育のもと、従来の校友会を改組して学徒振励隊を組織
16年	1941	12月8日	ハワイ真珠湾攻撃(アジア太平洋戦争が勃発、～昭和20年8月15日)
18年	1943	4月1日	官制改正により、徳島県師範学校および徳島県女子師範学校を発展的に解消し、官立徳島師範学校(男子部・女子部)を設置
19年	1944	4月1日	県立青年学校教員養成所を再編して官立徳島青年師範学校を設置
20年	1945	7月4日	徳島市中心部が空襲被災、徳島師範学校・徳島工業専門学校・徳島医学専門学校の校舎焼失
21年	1946	12月21日	昭和南海地震の発生



徳島市役所上空より空撮。昭和11年(1936)頃 徳島県立文書館蔵



師範学校男子部生徒の制服姿。明治32年(1899)
撮影・モデルは前田鶴吉氏
(『教学百年』より)



徳島県師範学校の正門



徳島師範学校
第1回卒業記念写真
明治11年(1878)4月

徳島県女子師範学校・県立徳島高等女学校の全景。
明治23年(1890)、女子教員養成を目的に徳島尋常師範学校に女子部を設置(翌年、旧・徳島女学校の校舎に移転)。
同41年に徳島県女子師範学校として独立し、徳島県立高等女学校(現 徳島県立城東高校)の隣に設置された
(昭和17年(1942)現在の県立城東高校付近)



● 学芸学部～教育学部時代

和 暦	西 暦	月 日	事 項
昭和24年	1949	5月31日	国立大学設置法により徳島大学を設置(学芸学部・医学部・工学部の3学部) 学芸学部には事務部、教務部、教育研究所、図書分館、附属学校を配置
24年	1949	7月15日	昭和24年度(第1回)徳島大学入学式を挙行
24年	1949	11月2日	徳島大学開学祝賀会を工学部講堂で挙行(以後、開学記念日となる)
25年	1950	4月1日	学芸学部にて2年制の小学校保育兼修課程を設置(昭和38年3月廃止)
25年	1950	9月1日	学芸学部にて通信教育部を設置(昭和34年3月廃止)
26年	1951	4月1日	師範学校の廃止により、徳島大学学芸学部附属小学校・中学校・幼稚園に改称
27年	1952	5月19日	旧師範・女子師範・青年師範卒業生を含めた3校合同の学芸学部同窓会の創立。総会を開催
27年	1952	5月2日	附属図書館を常三島地区に設置
29年	1954	9月30日	同窓会館「洗心苑」が学芸学部校地に竣工(平成元年取り壊し)
30年	1955	11月23日	学芸学部振興会会則の制定
38年	1963	4月1日	学芸学部にて2課程54学科目の設置を定める。養護教員養成課程(定員30名)の設置(昭和50年5月12日廃止)
39年	1964	10月10日	東京オリンピックの開催(～24日)
40年	1965	4月1日	教養部を設置(平成5年3月31日廃止)
40年	1965	4月1日	学芸学部にて学芸専攻科を設置(翌年4月に教育専攻科に改称)
41年	1966	4月1日	学芸学部を教育学部と改称(平成2年3月31日廃止)
41年	1966	4月1日	教育学部に養護学校教員養成課程・幼稚園教員養成課程を増設
41年	1966	4月5日	教育学部附属養護学校の設置
42年	1967	3月25日	教育学部校舎(現1号館)新営工事が竣工
42年	1967	4月1日	教育学部に特別教科(看護)教員養成課程(定員20名)を増設
42年	1967	6月1日	養護教諭養成所を附置(昭和54年3月廃止)
44年	1969	6～7月	大学紛争激化で教養部棟・医学部棟の一部が封鎖(8月2日解除)
49年	1974	5月1日	徳島大学教育学部同窓会編『教学百年』を刊行
50年	1975	4月1日	教育学部に養護教諭特別別科を設置(昭和61年4月21日廃止)
52年	1977	4月1日	教育学部に養護教諭養成課程を設置(平成2年3月31日廃止)
54年	1979	1月12日	共通1次試験の開始



木造建物時代の学芸学部本館
昭和24年(1949)の徳島大学発足以降、校舎の整備が進み、昭和30年までに本館、職業科教室、生物学教室、地理学教室、化学教室、音楽教室、物理教室、官舎、男子寮舎、体育館、女子寮などが建設された



学芸学部全景 昭和36年(1961)
絵画教員 吉田昌功氏作品



学園創設80周年ならびに学部設立5周年
記念行事 昭和29年11月20日



卒業式 昭和32年(1957)



昭和40年(1965)に
教養部が設置された



教育学部の新棟(現 総合科学部1号館)
昭和42年(1967)3月竣工

● 総合科学部時代および大学院

和 暦	西 暦	月 日	事 項
昭和61年	1986	4月22日	教育学部を改組して総合科学部総合科学科を設置(学生定員250名、4コース8ピーク)
61年	1986	4月	教育学部同窓会を「徳島大学渭水会」と改称
平成5年	1993	4月1日	教養部の廃止統合に伴い、総合科学部総合科学科を人間社会学科(5コース)、自然システム学科(4コース)の2学科に再編(学生定員270名)
6年	1994	4月1日	大学院人間・自然環境研究科修士課程(人間環境専攻・自然環境専攻)を設置
11年	1999	4月1日	全学共通教育センターを設置(平成28年3月31日廃止)
11年	1999	4月5日	明石海峡大橋が開通
13年	2001	4月1日	人間社会学科を7コース/4大講座、自然システム学科を3コース/3大講座に再編
15年	2003	4月1日	大学院人間・自然環境研究科に臨床心理学専攻(修士課程)を増設
16年	2004	4月1日	国立大学法人法により国立大学法人徳島大学の設立
18年	2006	11月4日	総合科学部創設二十周年事業を実施
21年	2009	4月1日	総合科学部2学科を人間文化学科・社会創生学科・総合理数学科の3学科7コースに再編 大学院人間・自然環境研究科を再編して、大学院総合科学教育部博士前期課程(地域科学専攻・臨床心理学専攻)および博士後期課程(地域科学専攻)を設置 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス(SAS)研究部を設置
28年	2016	4月1日	総合科学部3学科を総合科学部社会総合科学科4コースに再編(学生定員170名)/工学部7学科を理工学部理工学科に再編/生物資源産業学部生物資源産業学科を新設 大学院SAS研究部を大学院総合科学研究部に再編 大学院ソシオテクノサイエンス研究部を大学院理工学研究部に再編 大学院生物資源産業学研究部・教養教育院・教職教育センターを設置
29年	2017	4月1日	大学院総合科学研究部、大学院理工学研究部および大学院生物資源産業学研究部を再編し、大学院社会産業理工学研究部を設置
令和2年	2020	2月	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的大流行
3年	2021	4月1日	大学院総合科学教育部と大学院先端技術科学教育部を改組し、大学院創成科学研究科(博士前期課程(地域創成専攻・臨床心理学専攻ほか)/博士後期課程(創成科学専攻))を設置
6年	2024	4月1日	公共政策コースと地域創生コースを統合し地域デザインコースを新設、国際教養コース・心身健康コースと合わせて総合科学部社会総合科学科3コースとなる
6年	2024	10月19日	総合科学部創立150周年記念式典を挙行



総合科学部創設記念式典 昭和61年(1986)10月15日 総合科学部1号館301講義室



徳島大学創立120周年記念モニュメント「調和と発展」
(河崎良行氏 作) 除幕式 平成6年(1994)5月



平成26年(2014)
徳島大学
地域連携プラザ完成



新入生を迎える1号館南の桜並木



学生や地域の人々の憩いの広場となっている助任の丘。
平成24年(2012)第13回徳島市「街づくりデザイン賞」を受賞

渭水会のあゆみと 主な活動

昭和49年(1974)、
創立100周年を記念して
植樹された榊並木▶



渭水会は、1909年(明治42)発足の師範学校
同窓会を源に、現在の総合科学部まで、
母校・徳島大学の歩みとともに何度も変遷を
経ながら歩んできました。
115年の長い歴史を振り返ってみました。

和暦	西暦	月	事 項
明治42年	1909	1月	女子師範学校在学生及び卒業生により「済礪会」が組織される
42年	1909	11月	師範学校卒業生の同窓会「渭水会」の第1回総会を師範学校講堂で開催
大正元年	1912	12月	同窓会誌「渭水会報 第1号」発行
昭和6年	1931	4月	私立渭水会幼稚園を設立(昭和19年3月廃止)
26年	1951	5月	旧師範・女子師範・青年師範卒業生を含めた3校合同の学芸学部同窓会を創立
29年	1954	9月	徳島大学創立80周年記念 同窓会館「洗心苑」が竣工(平成元年取り壊し)
49年	1974	5月	徳島大学創立100周年記念『教学百年』刊行
61年	1986	4月	総合科学部の発足に伴い、教育学部同窓会を「徳島大学渭水会」と改称
平成6年	1994	5月	徳島大学創立120周年記念モニュメント「調和と発展」寄贈(河崎良行名誉教授 作) 1号館前
8年	1996		第16回現代日本彫刻展受賞作「a Knot in the Sea」(山上れい氏 作)を設置
22年	2010	5月	同窓生有志が助任の丘に蜂須賀桜を植樹
24年	2012	10月	ユーカリの木 記念碑建立(河崎良行名誉教授 デザイン)
26年	2014	10月	徳島大学創立140周年記念モニュメント「水の調べ」寄贈(鎌田邦宏氏 作)
27年	2015	3月	渭水会会長賞(優秀学生表彰)を新設
29年	2017	1月	総合科学部設置30周年記念「児童文学作家 くすのきしげのり氏講演会」を開催
令和元年	2019	11月	徳島大学設置70周年記念ホームカミングデーを開催 (注)1949年の国立大学徳島大学設置より70年を指す



師範学校時代の「渭水会」会則(『徳島県師範学校一覽』より)
大正2年(1913)



徳島大学創立120周年
記念モニュメント「調和と発展」
平成6年(1994)



同窓会館「洗心苑」は
昭和29年(1954)9月竣工。
現在の2号館北側に建てられた。

第1回 渭水会会長賞表彰式
平成27年(2015)



徳島大学総合科学部創立150周年を祝して

～わが青春時代～

さとうみのる
佐藤 豊 さん
インタビュー：衣川 仁 教授

三好郡東みよし町在住の佐藤 豊さん（101歳）は、昭和18年に徳島県立青年学校教員養成所を卒業されました。戦中の激動の時期を青年学校教員養成所で過ごされた佐藤さんに、学生時代の思い出をお聞きました。インタビューは総合科学部の衣川 仁教授。実は、佐藤さんは衣川先生の義理のお祖父様なのです。



近影 白寿の記念に

佐藤さんは今年で御年101歳、総合科学部の前身にあたる徳島県立青年学校教員養成所のご卒業ですが、まずは簡単にご経歴を教えてください。

大正12年（1923）の生まれです。三好郡（現在の東みよし町）の尋常高等小学校を卒業して、県立の農業学校に入りました。そのあと、昭和16年（1941）に青年学校教員養成所に入学しました。

入学まではずっと三好郡で過ごされたのですか？

いえ、農学校（県立農業学校）は鮎喰川のところにあったんです。その頃、ホームシックにかかって、学校の寮を抜け出して実家まで帰ったことがあります。無断だと心配をかけるので、先生に断ってからです。池田まで汽車に乗って、三好にある親戚の家で提灯を借りて、そこから実家まで歩きました。（一人で帰ってこられたため）家族には「これで安心じゃ」と言われて。

農学校時代から師範学校に進もうと思っていましたが、「師範学校の渭水寮は厳しい」と。ピアノを弾けないとダメで、学生の中にはハーモニカを遊びで吹く人もいと聞きました。自分は吹けなかったので…（笑）。

では、入学後のことを教えてください。

渭水寮はやっぱり厳しかった。風呂に入る順番も下級生が一番あと。2年生になると自炊なんで、朝早くに起きて米を炊いて、それから部屋の掃除、終わってから自転車で学校です。農業実習で吉野川の開墾地にも行きました。けっこうしんどかった。寮の娛樂室に卓球台があって、そこで卓球をするのが息抜き。農学校の頃から卓球とテニスが得意で、テニスは前衛でした。

教員養成所でもよくスポーツをされたのですか？

得意だったテニスで選手になりました。他には射撃の選手にも。三八式の銃で、訓練では撃つとどうしても反動で銃口が上がってしまうので苦労しました。他のスポーツはダメ。スケートのうまい人もいたけれど。バレーもろうきゅう籠球（バスケットボール）もダメでした。

勉強の方はいかがでしたか？

野菜の栽培法の授業なんかがあったり、牧野富太郎さんの植物図鑑を使った授業もありました。他の勉強では、得意科目はなかった（笑）。心理学が難しくて苦手だったし、英語もなあ…。英語が得意だっ

た同級生の田中君は独学で勉強していて、えらかったなあ。あと、音楽が苦手で、ハーモニカも歌の練習もダメで。ピアノを弾いていて、間違えると手を叩かれました。「弾けなんだから卒業ささん」と言われましたが、結局卒業できました（笑）。

（笑）同級生のお話が出ましたが、学生や教員との思い出はありますか？

これも寮でのことですが、下級生の態度が悪いと、上級生が畳の床をバシッと竹刀で叩くんです。それが怖くて。たいてい決まった人がやってましたけど。怖い先生はいなかったなあ。優しい先生が多くて、上級生の方がずっと怖かった。一度、若い先生が生徒に張り手をしたので、怒った生徒たちがストライキをしたことがありました。

昭和17年（1942）に養成所が移転することになって、その時はいろいろと手伝いました。井戸水に塩気があるので新しく掘ったけれど、なかなか水が出なかったのを覚えています。

養成所への入学が太平洋戦争開戦の年です。在学中は戦争の時期とも重なっていますね。

入った年に真珠湾攻撃がありました。それを聞いて

た時は皆で「ヤッタヤッタ」と喜んだものです。一週間ほど広島に軍事講習に行ったこともあります。海兵団でボートの漕ぎ方を教わりました。潜水艦の中も見学して、潜望鏡を間近で見せてもらったり。旅行といえば、皆で伊勢にも行きました。波が引いたところで集合写真を撮ったなあ。その後、奈良や大阪の造幣局にも行きました。

養成所を卒業してすぐ、佐古の青年学校の教員になりましたが、翌年には第五十五連隊の補充隊に入ることになり、すぐに善通寺の第十一師団へ転属しました。徴兵検査に受かって釜山^{プサン}に渡り、その三ヶ月後には幹部候補生の試験を受けたんです。養成所の頃から「軍人勅諭を覚えておけ」と言われていて、その通りに試験には後半部分が出たので、よくできました。昭和20年（1945）の4月に修了して、輜重^{しちょう}隊に戻って中国各地を転戦しました。

最後に今の学生に向けてメッセージを。

養成所時代は厳しかったが、日曜には映画を見たりして割合自由で、楽しかったです。今、学んでいる皆さんも、どうぞ楽しい学生生活をおくってください。



養成所の卒業記念に友人達とドンチャン騒ぎ。佐藤さんは後列右から2人目



テニスの選手として活躍しました

徳島大学総合科学部創立150周年を祝して

～わが青春時代～

た うち やす ゆき
田 内 康 之



学業はもちろんですが、サークル活動やボランティア活動、海外留学、アルバイトなど、大学時代でなければ体験できないことはたくさんあります。サークル活動に打ち込み、また阿波おどりや卒業アルバム編集委員なども務め、大学生活をめいっぱい謳歌された田内康之さんに青春時代を振り返っていただきました。

リーダークライスと総合科学部連

私が徳島大学総合科学部に入学した1989年は、元号が「昭和」から「平成」になった最初の年でした。今からちょうど35年前のことです。

私は、総合科学科 文化コース ピークⅠ（英語英文学教室）に所属し、英語学を専攻しましたが、在学中は2つのサークル活動も行っていました。

まず1つ目が「徳島大学リーダークライス」です。合唱は高校時代からしていましたので、大学でも続けたいという気持ちはもっていました。ただ、入団したのは入学当初からではありません。1年生の6

月、高校の後輩たちが出場する徳島県合唱祭を見に行っていた際、合唱祭終了後にロビーに集まっていた当時の団長に「リーダークライスに入団させてください」と伝え、7月から入団することとなりました。入団初日、学生食堂西側のプレハブ練習場で緊張しながら団員の前であいさつしたことは今でも覚えています。

この日から、リーダークライス団員としての大学生活が始まったわけですが、2週間後に落合小学校（三好郡東祖谷山村 ※現 三好市東祖谷 2012年3月31日廃校）で「地方演奏会」が開催されるとのことで、それに向けた練習が最初の活動となりました。



第31回徳島県合唱祭に徳島大学リーダークライスの一員として出演（田内さんは後列中央）



1990年1月20日、徳島市立文化センターで第27回徳島大学リーダークライス定期演奏会を開催

地方演奏会は隔年開催され、3年生の時は県南の学校を訪問しましたが、児童・生徒の皆さんと一緒に歌ったりして交流を図ることができました。

その他のリーダークライスの活動としては、4月は春合宿や新入生歓迎行事、5月は新歓合宿、6月は徳島県合唱祭、夏休み期間中は全日本合唱コンクールに向けた夏合宿と練習、そして9月以降は定期演奏会の開催に向けた練習と団員一丸となって活動したことが良い思い出となっています。

そして、もう1つが阿波おどり「総合科学部連」の活動です。

総合科学部連との出会いは、リーダークライスに入団した直後のことで、練習のために早めに学生会館に行ったところ、ちょうど総合科学部連が練習しているところでした。そこには総合科学部の同じクラスの人がいて、「一緒に踊ろう」と勧誘され、即日入連となりました。

徳島県民でありながら、阿波おどりを踊るのは中学校の運動会以来だったと思います。

当時、8月13日の昼間、各大学連が踊りの技を競う「全日本大学阿波おどり選手権」が藍場浜演舞場で開催されており、総合科学部連も毎年出場してい

ました。このため、夜の栈敷への踊りこみは8月14日を除く3日間でした。

1年生は踊り手として参加しましたが、翌年から鳴り物をする人がいなくなったため、鳴り物（大太鼓）に転向しました。鳴り物はそれまで全く経験がありませんでしたので、知り合いの方に叩き方を教わり、阿波おどり本番に臨みました。

総合科学部連としての活動は4年間続け、4年生の時には連長も務めました。

今振り返ると、阿波おどり本番前の練習は自分自身あまりしませんでした。総合科学部連として阿波おどりを堪能することができたことは良い思い出です。

今回、大学時代の思い出として、リーダークライスと総合科学部連について書かせていただくに当たり、久しぶりに卒業アルバムや大学時代の写真を見て、当時の記憶がいろいろとよみがえってきて、懐かしい気持ちになりました。

（平成5年 総合科学科文化コース ピーク1卒）



連長として総合科学部連を率いて演舞場へ（前列で太鼓を持っているのが田内さん）



卒業アルバムの編集委員も務めました



2024 10/19 (土) は母校へ!

徳島大学総合科学部創立150周年記念式典等のご案内

徳島大学総合科学部は今年、その前身である徳島師範期成学校の創設から数えて150周年を迎えることができました。これを記念して10月19日(土)は記念式典等さまざまなイベントを開催します。卒業生の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

事前に申込みが必要です

● 記念式典 13:00~(12:20開場)

場所 徳島大学地域連携プラザ「けやきホール」

ISUIカルテット(卒業生らによる弦楽四重奏団)の奏楽で幕開け。
150年のあゆみを紹介した記念映像も上映します。

定員
150名

● 記念講演会「スポーツと地域創生」 13:50~

場所 徳島大学地域連携プラザ「けやきホール」

講師 尾崎 徹也氏(ミズノ株式会社執行役員)
武知 実波氏(プロサーファー、本学卒業生)
中塚健太郎氏(総合科学部准教授)

定員
150名

● 記念祝賀会 15:20~

場所 徳島大学生協食堂2階「Diningキララ」

会費 4,000円(当日、受付にて申し受けます)

懐かしい学食で立食形式のアフタヌーンパーティを。
「総合科学部クイズ」などのアトラクションもあります。

定員
80名

お申込方法

QRコードまたは本会報に
同封の専用ハガキにて
お申込みください。



申込締め切り 9/20(金) 必着

定員に達した場合は抽選となります。なお、お申込みいただいた方については、9月30日(月)までに抽選結果をお知らせします。

お問合せ・連絡先

徳島大学常三島事務部総合科学部
事務課総務係

TEL 088-656-7103

E-mail sksoumuc@tokushima-u.ac.jp

記念展「近代徳島と人材育成」開催中

150年にわたる歴史を写真や年表、
貴重な資料で振り返るパネル展です。

期間 開催中~2024 10/27(日)

時間 9:00~17:00

場所 徳島大学新蔵キャンパス

ガレリア新蔵

(日亜会館1階)

※10月19日(土) 10:00より
展示開設あり



入場
無料

▲渭水会の
紹介コーナーも
あります

● 渭水会の取り組み

モニュメントの寄贈

メモリアルイヤーの象徴となる
モニュメントを、本学卒業生
の彫刻家・武田亜希子氏が
制作中。10月19日(土)にお
披露目します。

制作イメージ▶



オリジナルグッズで学部を応援



「徳島大学愛」あふれるグッズ
を購入して、学部を応援しま
しょう!

売上げは、制作費を除いて全
額学部へ寄附する予定です。

上記以外にも当日参加可能なイベントもあります。その他、総合科学部創立150周年記念誌(Web版)編纂、在校生の教育支援事業、地域連携事業、キャンパス整備など、さまざまな事業に取り組んでいます。詳しくはWebサイトをご覧ください。

総合科学部150周年
記念事業Webサイト



<https://www.tokushima-u-soka150.com>

パターン認知の心理をめぐって

似ているパターンとは何か

イラスト:尾田 理左氏

 徳島大学名誉教授 はま だ じ ろう
濱田 治良


愛媛大学の数理情報科学者である天野要氏らは2008年の論文で、図1の左右横一列の縦長楕円パターンの対（左も右も12個の楕円）の似ている程度（これを類似性としす）が変換で決まることを発表しました。ここで言う変換とは、図1で楕円パターン対の中の左の楕円パターン全体を一定の規則に従って変えて、右の楕円パターンに一致させることです。その実験では、大学生が楕円パターン対42種類の類似性を0点から10点の整数で評定しました。その内の12種類（番号1から12）のパターン対だけを図1に例示すると、類似性は左右が同じパターン対（番号1と2）では平均値が9.0であり、以下4.6へと順に低下しています。

ところで、番号3の左パターンは次の3種の変換のどれを施しても、右と同じになって平均値は8.8の高得点です。3種の変換とは番号3において、①点線に沿って鏡を立てると鏡の中の楕円パターンは右側と一致するので、鏡映変換Mと呼びます。また、②長方枠内の1つの白楕円を右端に移動させ、且つ全体を左に移動させると右側に一致するので、平行移動変換Pと呼びます。そして、③楕円の位置は固定して楕円の白黒をすべて変えると右側に一致するので、白黒反転変換Rと呼びます。ここで12個の楕円

の変え方は多数ありますが、楕円パターン全体を変える方法はこの3種の変換に限られます。

一方、番号4から6は左パターンに3種の内の2種の変換のどれを施しても右と同じになりますが、一致可能性が少なく平均値は7.4に低下します。たとえば、番号5の左パターンで長方枠内の3つの白楕円を右端に移動させる平行移動変換Pでも、また点線に沿った鏡映変換Mでも、右と同じになり7.7です。そして、番号7から9は3種の内の1種の変換でしか左パターンを右と同じにできず、一致可能性が更に少なくなるので、平均値は6.7に低下します。ひるがえって、番号10から12の左パターンは異なる2種の変換を順次施して始めて右と同じになり一致可能性が更に少なくなるので、平均値は4.6の低得点です。たとえば、番号10で左パターンに鏡映変換Mを施した後に、白黒反転変換Rを施すと右のパターンになりますが、一致可能性が極めて少ないので5.7の低得点です。

このように、人間はイメージ上で無意識的に左パターンに変換を施して、右への一致の可能性が多いほど類似性を高く評定しています。以上のように、私たちは群論と呼ばれる数学的理論に従って心理学的類似性を判断しているのです。

（昭和46年 教育学部小学校課程心理学教室卒）

番号	パターン対の例	変換	類似性 評定値 平均値
1	○○○○○○○○○○○○○○	左と右は同じ	9.3
2	●●●●●●●●●●●●		8.6
3	□●●●●●●●●●●	M、P、R	8.8
4	○●●●●●●●●●●	M、R	7.7
5	□○○●●●●●●●●	P、M	7.7
6	□●●○○●●●●●●	P、R	6.8
7	○●●●○○●●●●●	M	6.7
8	□○○●○○●○○●●	P	6.6
9	○○○○○○○○○○○○	R	6.7
10	●●●●○○●●●●○○	MとR	5.7
11	□○○●○○●○○●●	PとR	4.6
12	●●●○○●●○○●●	MとP	3.5

図1 横並び楕円パターン対に対する変換とその類似性

[連載⑪]

My Workplace

私の職場

総合科学部が創立されて早や30年余。
国内外を問わず多方面の職場で活躍されている
渭水会々員の皆様に、職場の状況や特色、体験談など、
その職場ならではのエピソードを語っていただきました。

農家

農業との出会い

ばん どう きみよ
坂 東 喜美代



中学校教員をしていた私は、退職前、夫から「退職後は石井にある農業大学校へ行くのはどうだ？」と提案されていた。嫁ぎ先が農家だったこともあり、通うことを即断した。そしてその後、私は専攻課程を変えながら農業大学校に4年間通い続けた。

農業大学校での授業は、午前中は座学、午後が圃場での実習だった。野菜作りは全くの素人だった私は、とすると午前中の座学では睡魔におそわれた。仲間から、「生徒が居眠りをする気持ちがわかった？」とよく揶揄された。午後の圃場での実習は本当に楽しかった。土づくりがいかに大切かもそこで教わった。種苗、育苗、除草、害虫駆除、収穫と多岐にわたり、懇切丁寧に、それこそ手取り足取り教えていただいた。道具の使い方や片付け方ももちろ

ん教わった。今の私があるのは全て先生方のお導きのお陰だ。

初年度、同期生は20代（2名）から60代の20名弱。そこで出会った先生方や仲間とは年2回の飲み会を中心に、同じ農業に携わる者として、今でも悩みを打ち明けたり、栽培方法を教えあったりしている。彼らには会う度、いつも元気づけられ、励まされている。

我が家は170a（17反、すなわち17,000平方メートル）の圃場に稲を植え付けている。田植え自体は田植機による機械植えだが、我が家の田んぼは12箇所に分かれている。夫がトラクターで耕し、代かきをして整えた圃場に私が苗を運び、夫が田植えを施す。田植えが終われば、後は水の管理と畦の草刈りだ。



作業を終え、孫と一緒に帰宅中。
帽子にサングラスにマスクに長袖・長ズボン、
そして赤い長靴
(2020年4月、田んぼ道にて)



①



②

こんな野菜も取れます。

でも、味は変わらないので、美味しくいただきます。

① 初めて人参に挑戦しました! (2021年10月)

② 耕転が甘く、十分に耕されていないようです (2021年12月)



きたあかり、メークイン、男爵のジャガイモの収穫を孫と一緒に
(2020年6月)

私は田植え後の田んぼの風景が好きだ。一面に緑色、そこへ風が吹いて稲がなびく様子がもうたまらない! どこへ行くにも、目をやるのは田んぼや畑の風景。気になって仕方がないのだ。

そして8月。黄金色に輝く稲になったら、稲刈りシーズンを迎える。コンバインが入りやすいように、四隅を手刈りするのがその時の私の役目。かつて、この時期がやって来ると、私の職場にはかわいい訪問者がやって来た。そう、2人の孫達だ。長男が私達の田んぼを手伝うのをみて、ママと一緒に、小さな手で一生懸命に稲刈りを手伝ってくれた。もう大きくなって田んぼにはやって来なくなったが、私達じいじとばあばをいつも気遣ってくれている。

私の職場は田んぼの他に家庭菜園がある。家から離れた場所に2箇所ある。農業大学校に通っていた

頃、帰宅後には、教えられたとおりに家の畑で復習をした。いつ何時に何をどう植え付けるのかという知識を得、1年もすれば畑仕事は一応やれるようになった。夏を迎える今の時期は、トマト、ナス、キュウリ、オクラ、カボチャ、トウモロコシ、枝豆、スイカを畑一面に植え付けている。連作障害が出ないように、毎年それぞれに植える場所を換えて植えている。

最初の農大卒業から10年経つが、未だに農大のノートが私の師匠だ。また、あの時の先生や仲間がフェイスブックで情報を発信してくれているので、それらも参考に頑張ることが出来ている。本当に感謝感謝だ。

(昭和53年 教育学部中学校教員養成課程英語科卒)



夫に励まされ、やっとの思いで登頂できました。朝5時出発、下山は夕方5時でした
(2023年6月、北海道「利尻山」にて)



農業は農繁期以外、時間を自由に使えます。人生を大いに謳歌していますよ
(2024年6月、小岩井農場にて)

マインドフルネスによる精神疾患の治療・再発予防・職場復帰支援に関する研究

徳島大学大学院 社会産業理工学研究部
社会総合科学域 人間科学系 心理学分野 准教授こうだ むねなが
甲田 宗良

涸水会会員の皆様、こんにちは。私は、総合科学部にて、産業臨床心理学研究室を担当している甲田宗良と申します。このたび、第14回総合科学優秀賞の栄誉を賜り、大変光栄に思います。受賞にあたっては、最高の研究環境と最良の刺激を与えてくださる総合科学部の先生方や職員の方々、そして学生や研究参加者の方々に大変お世話になりました。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。「研究最前線」執筆という貴重な機会を与えて頂きましたので、近年の私(研究室)の取り組みと簡単な今後の展望を報告させていただきます。

私は現在、うつ病や双極症など精神疾患を理由に休職されている方々に対する効果的な心理支援技法(職場復帰支援法)の開発・実践・評価に取り組んでいます。いわゆる「産業メンタルヘルス」と呼ばれる研究テーマです。

長時間労働や人手不足に代表される労働環境の悪化をはじめ、労働者の健康を取り巻く状況は困難を極めています。こうした状況も相まって、うつ病や双極症などの精神疾患の患者数、そして休職者数が増加しています。これらの疾患は、症状の再燃や疾患の再発率が高いため、休職-復職を「繰り返す」という問題が指摘されています。そのため、効果的な職場復帰支援法には、「再発予防」という要素が欠かせません。

そこで私は、マインドフルネスを取り入れた職場復帰支援法の開発・実践を進めています。マインドフルネスとは、①「今ここ」での経験に、評価や判

断を加えることなく、注意を向ける注意のあり方と、②自身のさまざまな経験を「受容的」「開放的」「関心を持って」味わう心的態度を可能にする心の在り方、と定義されます(Bishop et al., 2004)。マインドフルネスは、国内外で多数の研究・実践が進められています。マインドフルネスを身に付けるためのプログラムは、さまざまな疾病や健康問題に対する有効性や、仕事に必要な注意集中や記憶など認知機能への効果が、複数の研究で報告されています(最新の動向として、田中・甲田, 2021も参照)。私もこれまで、抑うつの問題(甲田, 2010)を皮切りに、近年は双極症への適用を報告しています(甲田, 2022, 2024)。

マインドフルネスを用いたプログラムは、通常1-2名の指導者のもと、10数名の参加者を対象に集団形式で実施されます。また、一般的な心理支援や職場復帰支援法と比較すると、個人の悩み・苦しみの「内容」を解決するというより、その悩み・苦しみを維持している個人に特有の「スタンス」に気づき、見つめ直し、新しい「スタンス」を構築することを重視しています。マインドフルネスの考え方自体は、原始仏教(ブッダの教え)を起源とし、2,600年もの歴史ある「スタンス」です。ブッダは悩み・苦しみを乗り越える修練の中で、考えや気持ちを「どうにかする」のではなく、「そのままにする」あるいは「バランスを保つ」ことが大切だと発見しました。そして、この「スタンス」は、再発率の高い疾患や休復職を繰り返すという問題と向き合う上で、大い

にヒントになります。仕事は、程度の差こそあれ、本質的には苦を伴い、またその苦を完全に無くすことは困難です。そのため、マインドフルネスの「スタンス」や「スキル」を修得することは、職場復帰支援法の洗練に役立つと考えられます。

現在、県内の関係機関とも協働し、マインドフルネスを取り入れた職場復帰支援法の開発・実践・評

価を進めています。この研究を推進し、一人でも多くの方の健康と仕事、すなわち「生きる」ことをサポートできるよう引き続き精進する所存です。関係する研究成果や本文中の引用（出典）は、下記のURLよりご確認頂けると幸いです。

https://researchmap.jp/munegoroh/published_papers

常三島 今昔 ④

タバコ吸い競争



さまざまな学校行事のなかでも、学園祭は今も昔も学生達が最も楽しみにしている行事のひとつ。写真は昭和30年代、学芸学部時代の体育大会のひとつコマです。当時は一週間にわたって大学内外を会場に文化祭・体育大会が行われていたそうで、なかにはこんな競技も！ 線香をぶら下げて真剣な顔でタバコに火をつける参加者達………今では考えられない光景です（笑）。

渭水会会長賞10回記念

ISUIKAI

学生への支援事業として平成26年度に創設された渭水会会長賞が、本年度で10回を迎えました。卒業年次の学部生3名、第4回からは院生1名も含め4名に授与しており、これまでに述べ37名の受賞者が巣立っていき、それぞれの道で活躍されています。映えある受賞者を代表し、第2回受賞者の富永美咲さんに現在の様子を伺いました。



第10回渭水会会長賞表彰式のもよう

学びは続くよ、どこまでも

第2回渭水会会長賞受賞 公認心理師・臨床心理士

とみなが みさき
富永 美咲



私は現在、徳島県内の精神科病院で公認心理師・臨床心理士として勤務しています。“医療領域で働く心理職”といえは、みなさんはどのようなイメージを持つでしょうか？カウンセリング・心理検査をバリバリこなす心理職の姿を想像するかもしれませんが、みなさんの想像ほどバリバリ働いているかはわかりませんが、当院でも統合失調症等で入院治療が必要な方の心理検査や、地域の中で生活しつつも発達障害や適応障害等で生きづらさを感じている方へのカウンセリング・心理検査を行っています。また、これらの業務に加えて、私の場合は発達障害の可能性があり、生きづらさを抱えていると思われる未就学児～中学生の子どもの治療・ご家族の支援を専門とした外来業務や、職場でのストレスを抱えた方の早期発見・支援を行うための産業カウンセリング業務にも携わっています。特に、発達障害専門の外来業務と産業カウンセリング業務では、心理専門職としての業務を行うだけでなく、医師・作業療法士・

心理師等それぞれの特徴を活かした治療・支援が行えるような体制作りに取り組みんだり、効率的に業務を行うためのツール（企業向けの研修資料、スク

リーニング検査の集計表等）を作ったりする等、縁の下での力持ちとしても奔走しています。その他、心理専門職としての知識・技術を培うために終業後の時間や休日に研修を受けるだけでなく、隙間時間に業務に必要な関連分野（ストレスチェック制度、職場の健康経営等）の専門書を読む、業務の効率化のためにExcel等のPCスキルを学ぶ、自分のケアのために家族との時間を持ったり趣味に勤しんだりする等、公私共に忙しくも充実した毎日を送っています。

時を少しさかのぼって…徳島大学・大学院在学中には、事件・事故・災害等の被害に遭われた方の支援について学び考える学生団体TSUNAGUの運営に携わってきました。同団体では、内海教授の下で先輩・同期・後輩と共に大学祭で広報・啓発活動を行ったり、犯罪被害に遭われた方の講演会の企画・運営を行ったりしてきました。その他、事件・事故・災害が私たちの心身や生活にどのような影響を与えるのか、それらの被害者を専門家としてどのように支援すればよいのか、被害者にとってよりよい支援をするためにどのような機関に協力を求めればよいのか等を学ぶために研修を受けたり、自分で学びを深めたりもしました。そうした活動が認められて、大学卒業時に第2回渭水会会長賞をいただけたことは、今思い出しても嬉しい出来事です。また、学生時代の活動で培った“見通しを持って物事を進める力”や“目標の達成に向けて他者（今であれば、病院のスタッフや家族）とうまく協働していく力”“必要な知識・技術の習得のためにコツコツ努力する力”



知らぬ間に仕事に必要な専門書でいっぱいになってしまった本棚

が、今の忙しくも充実した生活を送ることを可能にしていると思います。今後も、目の前の患者様・ご家族がよりよい生活を送るための“縁の下の力持ち”として、私にできることをコツコツ積み重ねていきたいと思っています。

最後になりましたが、この度は渭水会会報に寄稿させていただき、誠にありがとうございました。今回の寄稿を契機に学生時代から現在に至るまでの自分を振り返り、その時々で積み重ねてきた学びが自分の味方になることを改めて認識することができました。学生のみなさんが今、そしてこれから学び得ることは、社会人になった時に必ず糧になると思い

ます。徳島大学の学生のみなさんが学生生活の中で“今の自分にできること・今後の自分に必要なこと”を積み重ねて、将来の夢や目標の達成に近づけますように。

(平成27年 総合科学部人間文化学科心理・健康コース卒)
(平成29年 総合科学教育部(博士前期課程)臨床心理学専攻修了)



隙間時間に自宅でオンライン研修を受けているところ

渭水会会長賞 受賞者一覧

回	年度	西暦	表彰式	課程・学科	コース	氏名
1	平成26年度	2014	平成27年3月23日	総 合 理 数	数 理 科 学	山 田 梨 加
				人 間 文 化	心 理 健 康	大 野 佑 花
				社 会 創 生	地 域 創 生	坂 東 玲 子
2	平成27年度	2015	平成28年3月23日	総 合 理 数	数 理 科 学	角 谷 健 太
				人 間 文 化	心 理 健 康	富 永 美 咲
				人 間 文 化	国 際 文 化	中 川 雅 貴
3	平成28年度	2016	平成29年3月23日	総 合 理 数	数 理 科 学	片 桐 麻 衣
				社 会 創 生	地 域 創 生	岩 本 侑 姫
				人 間 文 化	国 際 文 化	吉 川 綾 乃
4	平成29年度	2017	平成30年3月23日	博 士 前 期	地 域 科 学	武 知 実 波
				総 合 理 数	物 質 総 合	畑 和 実
				社 会 創 生	環 境 共 生	釜 江 梨 紗
5	平成30年度	2018	平成31年3月22日	人 間 文 化	国 際 文 化	橋 本 顕 太 郎
				博 士 前 期	地 域 科 学	平 田 晶 子
				社 会 創 生	環 境 共 生	岸 田 卓 巳
6	令和元年度 (平成31)	2019	感染症対策で なし	人 間 文 化	国 際 文 化	浅 成 康 汰
				総 合 理 数	数 理 科 学	森 篤 志
				博 士 後 期	地 域 科 学	東 亜 弥 子
7	令和2年度	2020	感染症対策で なし	社 会 総 合	心 身 健 康	木 野 光 莉
				社 会 総 合	国 際 教 養	長 樂 楓 華
				社 会 創 生	環 境 共 生	矢 田 由 衣 加
8	令和3年度	2021	感染症対策で なし	博 士 前 期	臨 床 心 理 学	山 下 裕 子
				社 会 総 合 科	心 身 健 康	鈴 木 菜 穂
				社 会 総 合 科	国 際 教 養	佐 野 み どり
9	令和4年度	2022	令和5年3月23日	社 会 総 合 科	地 域 創 生	山 下 真 美
				修 士 課 程	地 域 創 成	松 本 卓 也
				社 会 総 合 科	心 身 健 康	中 山 実 咲
10	令和5年度	2023	令和6年3月22日	社 会 総 合 科	国 際 教 養	栗 飯 原 瑞 紀
				社 会 総 合 科	心 身 健 康	篠 原 愛 実
				修 士 課 程	臨 床 心 理 学	眞 島 凌
10	令和5年度	2023	令和6年3月22日	社 会 総 合 科	地 域 創 生	原 桜 子
				社 会 総 合 科	国 際 教 養	小 嶋 誉 大
				社 会 総 合 科	心 身 健 康	山 内 芙 優
10	令和5年度	2023	令和6年3月22日	博 士 前 期	臨 床 心 理 学	畑 山 奈 都
				社 会 総 合 科	地 域 創 生	元 木 ま り あ
				社 会 総 合 科	国 際 教 養	吉 田 千 鶴
10	令和5年度	2023	令和6年3月22日	社 会 総 合 科	心 身 健 康	中 川 結 稀

輝く新星

第10回 渭水会 会長賞

平成26年度に創設された「渭水会会長賞」。これは、研究及び学生としての活動全般において優れた学生に対して贈られるものです。第4回からは、対象を院生にも広げ、学生3名・院生1名に贈呈しています。

令和6年3月22日（金）、総合科学部1号館第1会議室において表彰式が行われました。

令和5年度（第10回）渭水会会長賞の受賞者は
畑山 奈都さん（大学院創成科学研究科博士前期課程 臨床心理学専攻）
元木まりあさん（総合科学部 地域創生コース）
吉田 千鶴さん（総合科学部 国際教養コース）
中川 結稀さん（総合科学部 公共政策コース）の4人です。



左から、内海理事長、畑山さん、吉田さん、
中川さん、元木さん、石井会長

学生生活で身につけたことを社会で活かす



はたけやま なつ
畑山 奈都

この度は渭水会会長賞という名誉ある賞をいただくことができ、大変光栄に思っております。私の学生生活において、関わってくださった先生方や、友人、家族の支えがあり、このような賞を頂くことができました。心より感謝申し上げます。

私は、公認心理師および臨床心理士を目指し徳島大学に入学し、学部と大学院を合わせて6年間、徳島大学で多くのことを学びました。学部では、総合科学部社会総合科学科心身健康コースに所属し、心理学のみならず多岐にわたる分野を学び、多様な知識を身につけることができました。その後、徳島大

学大学院の創成科学研究科臨床心理学専攻に進学し、より専門的な授業や、実際に支援を求めている方々と関わる実習、修士論文の執筆、ボランティア活動などに取り組みました。このような大学院生活は、多くの方々に支えられ、主体性と忍耐力を身に着けることができた2年間でした。

まず、主体性についてですが、大学院の授業は学生同士で質疑応答を行う形式が多く、実習においても積極的に質問を行うなど、学部の頃と比較すると自ら学ぶ機会が増えました。最初はどのような質問を行えばよいか悩むことも多かったのですが、良い質問をしようとするのではなく、些細な疑問について尋ねても良いと感じるようになり、積極的に質問ができるようになりました。このような体験を通じて、自身の疑問を解決し、学ぶことの楽しさを実感しました。さらに、周囲の方々の質問を通じて、自分では気付くことのできなかった新たな視点を得ることができました。大学院では、一方向から物事を見るのではなく、多角的な視点で物事を見ることの重要性を学んだため、周囲の方々の質問によって、私自身の視点を広げることができました。

大学院生活では、満足のいく修士論文の研究計画を立てることができないことや、授業や実習で自身の不甲斐なさを痛感することなど、困難に直面することも多くありました。これまでの私であれば、諦



笑顔の絶えない研究室でした！

めてしまうことが多かったと思います。しかし、大学院生活では同期や先輩、後輩の頑張りを近くで見えてきたからこそ、私自身も鼓舞されることが多くありました。また、疲れを感じた際に、院生研究室の皆でケーキやお菓子を食べるなどしてリフレッシュすることで、再び頑張ろうと気持ちを切り替えることもできました。このように近くで頑張っている方々に支えられ、微力ながらも忍耐力を身に着けることができたと感じております。

現在は、希望していた総合病院の心理職として働



疲れた時に見る徳島城公園の桜は
とても綺麗でした！

いております。
総合病院で働く
心理職には、予
想以上に幅広い
医療知識が求め
られるため、医
療の知識がほと
んどない私は、
日々勉強に励ん

でいます。現在は心理
の専門家として、病院
の中で役に立っている
と自信をもって言うこ
とはできませんが、大
学院生活で培ってきた
忍耐力と主体性を活か
し、分からないことや
できないことは放置せず、自ら調べることを心掛けて
います。また、自身で調べても解決できない場合は、
すぐに他の人に相談するなど、積極的に学ぶ姿勢
を大事にしています。今後も自身の不甲斐なさを
痛感する出来事や、諦めたいと思ってしまうことは
多いと思います。そのような時は、大学院生活での
学びや、大学院を共に乗り越えた同期、支えてくだ
さった先生方を思い出し、精進していこうと思いま
す。最後にはなりますが、徳島大学の益々のご発展
を心よりお祈り申し上げます。

(令和6年 大学院創成科学研究科 臨床心理学専攻 修了)



大学院時代に食べたケーキの
数は数えきれないです…

人と出会い、成長した4年間

私の大学生生活は新型コロナウイルスの影響による
オンライン授業の開始により、不安を抱えた始まり
となりました。しかし、徐々に対面授業や課外授業
が再開されたこともあり、同級生と出会い、人との
かかわりが自分の成長に大きく関わってくことを
認識できた4年間だったと思います。私が大学に入
学した頃は、将来の夢も定かではなく、ただ漠然と
「地域に関わることを学んでみたい」という思いを
持ち学び始めました。大学4年間を通して、興味
のあった地域創生についてだけでなく、他コースの授
業も受講することで様々な分野の学びを得られたと
思っています。大学に入学して、高校までの学習と
最も異なっていたのは、知識をただ蓄えるだけでな
く、自らの意見を発信し、チームで何かを作り上げ
る経験を多く積むことができるという点でした。

2年次から始まった調査実習では、地域課題の解
決に向けたツアーを提案し、企業が開催するコンペ
に参加するというものでした。ここでは、チームメ

イトと自ら地域に赴き、その地域に住まれている
方々にお話を伺い、課題を見つけ出すという過程か
ら始まりました。私たちのチームは始めのうちは、
どのように進めていけば良いのだろうと悩んでばか
りでした。しかし、ツアーに協力してくださる関係
者の方々や先生から意見を頂くうちに、メンバー同
士で自らのアイデアも沢山言い合えるようになり、
ツアーを作り上げることができました。調査実習を
きっかけとした多くの出会い、そして活発なコミュ
ニケーションによって完成させたツアーは、地域住
民に喜んでいただ
くことができ、非
常に達成感を感じ
ました。今となっ
ては、チームの皆
で休みの日も惜し
んで集まり話し合
いを行ったり、汽

もと
元木 まりあ



ゼミ活動で小豆島へ向かう
フェリーで

車にゆられながら対象地域へと赴き古民家の掃除に取り組んだりしたことも良い思い出です。

また、3年次からはゼミでの活動が始まり、自分でテーマを考え、行動しなければいけない難しさに直面していました。元々自分の意見を述べるのが苦手な私は、3年次のゼミでは、積極的に発言することができませんでした。しかし気持ちを切り替え、4年次のゼミでは失敗を恐れず必ず1人に1回は質問を行うという気持ちでゼミに挑みました。始めは大変でしたが、続けることで自分の自信にも繋がり、またゼミ内での意見交換の重要性にも気づくことができました。自身の卒業研究にも、他のゼミ生からの質問により、自分の考えが至っていない部分の再発見にも繋がり、卒業研究の内容により深みを出せ



お世話になった塚本ゼミの皆様

たのではないかと思います。

このように、大学での経験を通して、他者とのかわりが自分に大きな影響を及ぼしていることに気づかされました。ひとりの力で完璧にできることもあるかもしれませんが、人と出会い、考えや思いを通わせるということは、自身の成長にも繋がり、より大きな成果として残っていきます。現在私は、建設業の事務として働いています。まだ働き始めて僅かな時間しか経っていませんが、仕事も同様に、ひとりだけで完結するものはありません。誰かから仕事を受け取り、誰かにつないでゆくものがほとんどです。そのため、自分と出会い関わってくださる方への感謝を忘れず、これからもモノづくりを行う企業の一員として、地域の方々の暮らしがよりよくなるよう尽力していきたいと思います。

最後になりますが、この度このような素晴らしい賞をいただくことができ、大変光栄に思っています。ご指導いただいた塚本章宏教授をはじめ、大学生活を支えてくださった教職員の皆様、家族、友人に心より感謝申し上げます。そして、徳島大学の益々のご発展をお祈りしております。

(令和6年 総合科学部社会総合科学科 地域創生コース卒)



ツアー予行の最中の一枚

★ 2つの関心

大学生活を振り返ると、徳島大学での自身の学びの根底には、2つの関心がありました。1つは、中学生時代に、徳島県上勝町のまちづくりについての講演会に参加して以来の「まちづくり」に対する関心、そしてもう1つは、高校生時代に、「民法改正による成年年齢引き下げ」について課題研究を進める中で、「法律」に対する関心です。そのような中、「まちづくり」と「法律」の両方を学ぶことができる徳島大学に入学することを決めました。実際に大

学では、自身の2つの関心を基に授業を選択していたため、どれも興味深かったことを覚えています。

そのような中でも、自身の2つの関心が特に高まったと感じたのは、4年次のオックスフォードおよびロンドン遠征時です。ゼミの担当教諭の清水先生に、貴重な機会を設けていただき、まずはオックスフォード大学を訪問しました。そこでは、コリンメイヤー博士に、金融資本市場制度、株式会社制度等について質疑応答のお時間をいただき、私は、生

なかがわ ゆき
中川 結稀



成AIの開発に関する法規制について質問させていただきました。その中でも特に、「生成AIの使用によって、企業が蓄積しているデータが悪用される」という懸念がある中、現在は各国によって異なるAI規制を将来的に国際的に統一すべきである」とのご意見をいただくことができたのは、近年注目を浴びた生成AIに関する問題点を、企業に対する法規制という面から考える契機となりました。

対照的に、ロンドンで過ごす中で、ロンドンの街並みについても非常に刺激を受けました。歴史的建造物が立ち並ぶことでの統一感、歩きやすくコンパクトな中心市街地、市街地の中にある自然豊かで動物と触れ合うことのできる公園等、日本とは異なる街並みについてです。また、全体を通して無電柱化された街並みについては特に感銘を受けました。無電柱化によって、美しい景観や快適な通行空間の形成につながりますし、さらには災害時に倒れた電柱に道をふさがれることがないことも無電柱化の効果の1つです。そのため、無電柱化が進んでいるロンドンのまちづくりは、地震や台風等、比較的災害が多い日本においても参考にしていきたい面だと感じました。このように、自身の2つの関心が高まったオックスフォードおよびロンドンでの滞在は決して忘れることのできない体験となりました。

現在私は、四国のインフラの整備や維持管理等を通して、まちづくりを行う機関で働いています。現在の職場も「まちづくり」と「法律」という2つの関心から志望しました。現在も業務についてご指導いただきながら日々勉強の毎日です。もっとも、私がやりがいを感じながら業務についての勉強が続けられる理由の1つとして業務の根底には自身の2つの関心があるからだと思っています。なお、工作上、法令を参照したり、根拠となる法令を提示しながら説明したりすることが多々ありますが、徳島大学に

おける法律の授業や日々の民事法ゼミでの経験が力になっています。今後は、法令に関する知識をより一層深めていくと共に、相手に伝わる説明を意識しながら自身の業務を進めていきたいです。そし



ロンドンの街並みを背景に



卒業式にてゼミの皆様と

てそれにより四国におけるまちづくりに少しでも貢献したいと考えています。

最後になりましたが、この度は名誉ある渭水会会長賞をいただくことができ大変光栄に存じます。このような賞をいただくことができたのは、ご指導またはご支援くださった先生方や職員の皆様、家族、友人のおかげだと存じます。大学生活を支えてくださった方々に心より感謝申し上げます。そして、徳島大学の益々のご発展をお祈り申し上げます。

(令和6年 総合科学部社会総合科学科 公共政策コース卒)

徳島大学総合科学部渭水会会長賞表彰要項

(目 的)

第1条 研究活動及び学生としての活動全般について優れた者を表彰する。

(表彰人数)

第2条 学部生3名、博士前期課程(修士課程)院生1名とする。ただし、博士後期課程院生においても特に優秀と認められた場合は、1名を表彰人数に追加することができる。

(表彰者の選考)

第3条 学部生は4年次前期終了、博士前期課程(修士課程)院生及び博士後期課程院生は修了・退学時の前期終了までの研究活動・社会活動・成績等に基づいて行う。

第4条 1 学部生及び博士前期課程(修士課程)院生においては、次の基準に該当する者とする。

- (1) 研究活動・社会活動等で優れた業績を有する者
- (2) GPA上位者

2 博士後期課程院生においては、原則として全国的な表彰を受けた者とする。

(表彰の決定)

第5条 表彰の決定は、学部長が招集する選考委員会で協議し、渭水会会長に推薦し、決定する。

(表彰の時期等)

第6条 表彰は、学部生においては4年次後期、院生においては修了・退学時の後期に渭水会会長が行う。
副賞として1名につき5万円を給する。

(要項の改廃)

第7条 この要項の改廃は、総会の議によって行うものとする。

附 記

- (1) 平成29年5月27日(土)の総会で決定し、平成29年度より実施する。
- (2) 令和2年5月30日(土)の理事会で決定し、令和2年度より実施する。
- (3) 令和5年6月3日(土)の総会で決定し、令和5年度より実施する。

徳島大学音楽研究室 研修会

～吉森章夫先生を囲んで～

日時 2023年11月4日(土)

会場 ザ・グランドパレス

内容 「合唱曲の歴史

～ルネサンスから現代の作品まで～」

講師 吉森 章夫 先生 (徳島大学名誉教授)

学芸学部、教育学部、総合科学部にわたる徳島大学音楽研究室の卒業生が一堂に集い、吉森章夫先生(徳島大学名誉教授)を囲んで研修会を開催した。

まず、吉森先生より、西洋音楽の根源であるグレ



ゴリオ聖歌について、ネウマ譜の紹介、ソレム曲線を用いた譜面の読み方なども含めてお話しいただき、全員でグレゴリオ聖歌より「Ave Maria」の一節を歌ってみた。また、



先生のご指導・指揮で「フィンランディア讃歌」をはじめとする近現代の合唱曲を歌って再会を祝った。卒業年は違えど、さすが吉森先生に声楽や合唱を学んだ者同士。美しい音色とハーモニーが会場に響き、笑顔と感動があふれた。

徳島ジュニアオーケストラ指揮者の生駒元氏によるチェロ独奏、吉森先生と男声による力強い男声合唱など、参加者によるミニコンサートも行った。徳島県教育界の礎を築いてこられた先輩たち、現役の教員、徳島の音楽界の第一線で活躍している卒業生らが親交を深め、情報・意見交換を行うことができ、非常に有意義なひとときとなった。

(昭和57年 教育学部中学校課程音楽教室卒)

徳島大学地学教室 講演会

日時 2024年1月3日(水)

会場 ザ・グランドパレス

演題 「水素革命、DX学校教育革命、
超学際俯瞰融合科学法」

講師 丸山 茂徳 氏 (東京工業大学大名誉教授)

毎年開催していた徳島大学地学教室同窓会はコロナ禍によって2020年から2023年まで開催を見送ってききましたが、2024年1月3日、久しぶりに開催することができました。私の手元には、1998年からの資料がありますが、毎年1月に日本各地や海外から恩師や先輩・後輩方が集まり旧交を温めていました。恩師である須槍和巳先生や中川衷三先生、そして岩崎正夫先生から人生の悩みや解決法などを拝聴した

やま ぐち よし こ
山 口 由 子

ことも今は懐かしい思い出です。今日まで長く続いたのも地学教室の先生方をはじめとする温かい雰囲気のおかげです。同窓会で英気を養い、心のふるさとに帰った気がする。毎年、近況報告に書かれる方もありました。2016年の同窓会后、3月に岩崎先生が黄泉路に旅立たれた後は、東明省三同窓会会長が



中心となり本会を盛り上げてくださいました。

今年も全国から14人が集いました。はじめに増田英俊大先輩が挨拶され、徳大地学教室の草創期の懐かしい思い出を語ってくれました。次に東工大名誉教授の丸山茂徳先輩より「水素革命、DX学校教育革命、超学際俯瞰融合科学法」の最先端について講演いただきました。丸山博士は地球科学、地球物理学、天文学、生物学等の分野で超学際的科学の実践に取り組み、その独創的仮説やモデルはポストダーウィン進化論と呼ばれ、国際研究の最前線を先導し

ています。講演の後は、和やかな雰囲気の中に会食が進み、最後の同窓会を無事に終えることができました。約70年

続けてきた地学教室同窓会は今回で最後となりました。長きにわたってご支援くださった渭水会や諸先輩・後輩の皆様に心からお礼申し上げます。

(昭和51年 教育学部中学校課程地学教室卒)



徳島県退職女性教職員の会 学習会

会長 とみ 富 だ 田 まゆみ 真由美

日時 2024年5月23日(水)

会場 阿波観光ホテル

演題 「相談を通じて見た外国人労働者の現状&課題—外国人技能実習生について」

講師 フリー 傅 麗 氏 (連合徳島事務局員)



今年度の学習会は、連合徳島の傅麗さんを講師にお招きし、外国人労働者問題について講演いただきました。

1993年、「外国人技能研修・実習制度」は開発途上国等への技能移転の仕組みとして創設され、中国やベトナムからの技能実習生の受け入れが始まりました。しかし、受け入れ体制が不十分なため、トラブルが続出、連合徳島にも技能実習生からの相談が殺到しました。2001年から連合徳島に勤務している中国天津市出身の傅麗さんは、中国語を生かして外国人労働者の相談を担当しました。

大連出身の柳さんは、2018年、多額の借金を抱えて技能実習生として来日し、徳島市内の縫製会社で働くことになりました。雇い主は給与明細も渡さず、柳さんは自分で労働時間、給料、残業代を毎日メモしていました。毎月の残業時間は180時間を超え、未払いの賃金は4年間で213万円。耐えかねた柳さん

が過酷な状況を労働基準監督署や連合徳島に訴えると、雇い主に「おまえは会社を潰すのか」「すぐに中国へ帰れ」と罵倒され、柳さんはたまらず帰国の同意書にサインしてしまうのです。そんな柳さんに寄り添い、傅麗さんは未払いの給料を取り返そうとしましたが、時効の壁に阻まれ315,000円しか取り返せませんでした。その夜、傅麗さんは帰国前夜に彼女を迎えに行きます。彼女の一夜の宿を提供してくれたのは阿波観光ホテルでした。傅麗さんは多くの実習生のために尽力してきました。

外国人労働者の権利が守られ、安心して働き暮らすことが出来る社会の実現を熱く語る傅麗さんの思いは、私たち日本人に投げられたボールです。外国人に対する差別と偏見をぬぐい去り、1人の人間として対話していくことから始めていきましょう！

(昭和49年 教育学部中学校課程社会科史学教室卒)



総科ニュース

※この総科ニュースについての詳細は、徳島大学総合科学部総務係にお尋ねください。

徳島大学総合科学部総務係 TEL：088-656-7103 FAX：088-656-7298

E-mail：sksoumuc@tokushima-u.ac.jp

【総合科学部の1年】

令和5年(2023)7月～令和6年(2024)6月

※令和5年7月23日(日) 総合科学部振興会評議員会・総会の開催

令和5年度総合科学部振興会(在学生の保護者会)評議員会・総会をけやきホールで開催。就職ガイダンス、保護者懇談会もあわせて行いました。

※令和5年8月10日(木) オープンキャンパスの開催

令和5年度総合科学部オープンキャンパスを対面とオンライン(ZoomおよびYouTubeライブ)のハイブリッド形式で開催、県内外の多くの方々(約850名)に参加いただきました。

※令和5年9月5日(火) JR四国主催の旅行企画コンペ「地域観光チャレンジ」で本学部生の企画案が金賞・銀賞を受賞

四国4国立大学が参加するJR四国主催の旅行企画コンペ「地域観光チャレンジ」の最終審査会が香川大学で開催され、本学部学生提案の「藤の花×遊山箱! エシカルに＃ヌン活」が金賞、「上勝でLearning journey!」が銀賞を受賞しました。これらの企画はJR四国のツアーとして商品化され、令和6年度中に催行されます。

※令和5年9月15日(金) 第28回新構想学部教育・研究フォーラムに参加(主催校：東京大学)

第28回新構想学部教育・研究フォーラムが東京大学を主催校としてオンライン(Zoom)で開催され、学部教育における生成AIの活用等について意見を交換しました。

※令和5年9月28日(水)～29日(木) 令和5年度地域系大学・学部等連携協議会に参加(主催校：徳島大学)

令和5年度地域系大学・学部等連携協議会が徳島大学フューチャーセンターで開催され、協議会を主体とした地域系学術誌の刊行等について意見を交換しました。

※令和5年10月5日(木)～6日(金) 第23回国立大学法人17大学人文系学部長会議に参加(主催校：愛媛大学)

第23回国立大学法人17大学人文系学部長会議が愛媛大学で開催され、人文系学部の教育・研究・組織運営等にかかる課題について意見を交換しました。

※令和5年10月26日(木) 在学生と学部長との懇談会の開催

学生6名、教職員5名が参加し、学部のカリキュラム、学生生活、施設・設備等について意見交換を行いました。いただいたご意見は、今後の教育・研究環境の改善に反映させてまいります。

※令和5年10月26日(木) 優秀学生(3年次学生)表彰式

学業成績が優秀な学部学生(3年次学生)に贈られる優秀学生表彰式があり、優秀学生9名を表彰しました。表彰者は次のとおりです。

〔国際教養コース〕下川愛璃、八木史穂

〔心身健康コース〕工藤有紗、東條朱華、角井天祐

〔公共政策コース〕加藤胡優、岡本奈桜

〔地域創生コース〕光永 悟、梶浦瑞希

※令和5年11月～令和6年1月 総合科学部公開セミナーの開催

一般市民向けの総合科学部公開セミナー「人文・社会知への誘い」をオンラインで2回開催しました。

・第32回：中塚健太郎准教授「健康と実力発揮に役立つスポーツ心理学」(令和5年11月30日)

・第33回：山本哲也准教授「私たちの心を調整し可能性を拡張するデジタル技術の展開」(令和6年1月19日)

※令和6年2月16日(金) 康楽賞贈与式

徳島大学の優秀な専任教員および学生を対象として、公益財団法人康楽会から贈られる「康楽賞」の贈与式が長井記念ホールで行われました。総合科学部関係の受賞者は次の方々です。

〔教員の部 学術研究関係〕

大学院社会産業理工学研究部准教授 小田切康彦

〔学生の部 学術研究関係〕

総合科学部4年 岡山千夏、元木まりあ

〔学生の部 奨学生関係〕

総合科学部4年 南蒼斗

創成科学研究科 臨床心理学専攻2年 山中茉椰

※令和6年3月6日(水) 大学院修了予定者と教育部長・専攻長との懇談会の開催

大学院修了予定者4名、教職員6名が参加し、カリキュラム、論文指導体制、研究設備等について意見交換を行いました。いただいたご意見は、今後の大学院の教育・研究環境の改善に反映させてまいります。

＊令和6年3月22日(金) 令和5年度卒業式・修了式

令和5年度の卒業式・修了式がアスティとくしまで行われました。学部卒業生は159名、大学院修了生は創成科学研究科博士前期課程地域創成専攻9名、臨床心理学専攻8名、総合科学教育部博士後期課程地域科学専攻1名。また、学位記・卒業証書の受け渡しの式を学部の講義室で行いました。

＊令和6年3月22日(金) 令和5年度優秀学生(4年次学生、大学院生)表彰式

学業成績が優秀な学部学生(4年次学生、大学院生)に贈られる優秀学生表彰式があり、優秀学生13名を表彰しました。表彰者は次のとおりです。

〔大学院総合科学教育部博士後期課程〕西村里奈

〔大学院創成科学研究科博士前期課程地域創成専攻〕

助野理音奈

〔大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻〕

前田詞緒

〔国際教養コース〕外館健人、渡慶次良奈

〔心身健康コース〕下川裕子、杉村建樹

〔公共政策コース〕中川結稀、岡山千夏、中泉陽菜、

江角翔太

〔地域創生コース〕佃紗也香、元木まりあ

＊令和6年3月22日(金) 渭水会会長賞表彰式

研究活動等で優れた成果を挙げた学部・大学院学生に贈られる渭水会会長賞表彰式があり、4名の学生を表彰しました。表彰者は次のとおりです。

〔大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻〕

畑山奈都

〔国際教養コース〕吉田千鶴

〔公共政策コース〕中川結稀

〔地域創生コース〕元木まりあ

＊令和6年4月 地域デザインコースの新設

令和6年4月より、公共政策・地域創生の地域系2コースを統合し、新たに「地域デザインコース」を開設しました。コースでは、理論と実践を兼ね備え、地域課題の解決に向けた実効的な政策提言、イノベーションの創生に貢献できる高度な地域創生人材を養成します。今回のコース再編により、総合科学部は国際教養・心身健康・地域デザインの3コース制となります。

＊令和6年4月5日(金) 令和6年度入学式

令和6年度の入学式がアスティとくしまで行われました。入学者数は、総合科学部180名、大学院創成科学研究科博士前期課程地域創成専攻16名、臨床心理学専攻12名、博士後期課程創成科学専攻19名。

＊令和6年5月25日(土) 令和6年度渭水会総会の開催

令和6年度の渭水会総会を第1会議室で開催、総合科学部創立150周年記念事業等についても報告、審議を行いました。

＊令和6年6月27日(木) 令和6年度総合科学優秀賞受賞者表彰式

優れた研究成果を発表した総合科学部教員に対して贈られる総合科学優秀賞に甲田宗良准教授が選出され、表彰式が行われました。受賞にかかる研究分野は「人間文化・人間社会の向上に関する基盤研究」です。

【人事異動】

＊コース長の紹介

総合科学部社会総合科学科の各コース長に以下の3名が選出されました。任期は令和6年4月1日～令和7年3月31日までの1年間。

国際教養コース 山口裕之 教授

心身健康コース 佐藤充宏 教授

地域デザインコース 中村 豊 教授

＊教職員の異動

令和6年3月31日付で次の教員が退職されました。

井戸慶治 教授(ドイツ文学)

田久保浩 教授(英米文化論)

平木美鶴 教授(絵画表現学)

山口鉄生 教授(スポーツ医学)

今井晋哉 准教授(ドイツ近代史)

佐竹昌之 准教授(コーチング論)

塚本章宏 准教授(空間情報学)

令和5年10月1日付で次の教員が着任されました。

廣野 誠 准教授(経済学)

令和6年4月1日付で次の教員が着任されました。

McCandie Tanja Marie 准教授(コミュニケーション学)

紺田 俊 講師(スポーツ経営学)

夏目宗幸 准教授(空間情報科学)

石原由貴 講師(芸術工学)

令和5年9月1日付で次の教員が昇任されました。

田口太郎 教授(地域計画学)

令和6年4月1日付で次の教員が昇任されました。

佐原 理 教授(デザイン学)

甲田宗良 准教授(産業心理学)

令和6年4月1日付で次の事務職員が着任されました。

正本理恵 氏(総合科学部事務課学務係長)

徳大ニュース

1 令和6年度入学式が挙行されました

花曇りとなった4月5日(金)、アスティとくしまにおいて、令和6年度入学式を挙行しました。学部生1,371名、大学院修士・博士前期課程476名、博士・博士後期課程87名が入学しました。キャンパスでは桜も満開となり、気持ちも晴れやかに、新たな学びの旅路が始まることを祝福しているようでした。

2 徳島大学公式サイトトップページをリニューアルしました

いつも本学の公式サイトをご利用いただき、ありがとうございます。今春、トップページをリニューアルいたしました。利用者が欲しい情報に早くたどり着けるよう内容を整理し、上部に目的別メニュー項目を配置しました。メニューがプルダウンするなど、操作性も向上させております。今後とも変わらぬご愛顧を賜りますようよろしくお願いいたします。

3 徳島びざん会交流会、関東地区びざん会交流会を開催します

びざん会交流会は、各同窓会・支部の皆さまへ本学の活動を報告するとともに相互の意見交換を目的として開催しております。徳島びざん会交流会(開催地：徳島県)は10月頃、近畿地区びざん会交流会(開催地：大阪市)及び関東びざん会交流会(開催地：東京都)は毎年関東と近畿で交互に11月頃に開催しています。今年は、徳島びざん会交流会を10月10日(木)に、関東びざん会交流会を11月10日(日)にそれぞれ開催いたします。お近くにお住まいの同窓生の皆さま、ぜひご参加ください。詳細は8月頃に本学HP「徳島大学びざん会」ページ(下記QRコード参照)にてご案内しており、開催後のご報告もお届けしておりますので、是非、ご覧ください。

4 TOKUSHIMA UNIVERSITY GIVING CAMPAIGN 2023のご報告と2024のご案内

GIVING CAMPAIGNとは、国公立大学・大学生の学生団体活動の支援を目的とした、大規模なオンラインチャリティイベントです。本学学生団体の取組みを全国に向けて発信することにより、各企業をはじめとした支援者による支援金が参加学生団体へ分配される仕組みです。昨年度は、1週間のイベント期間において、4,893人の方々の応援と、各企業からの協賛金や個人からのご寄附など、多大なご支援をいただきました。

本年度も3回目の開催が10月11日(金)から20日(日)に、全国の参加大学との一斉開催で行われます。同窓生の皆さまから応援やメッセージをいただきますと、学生達の励みになり、活動の強化に繋がっていきます。

特設サイトは開催の1週間前に公開予定です。同時に本学公式サイトでもご案内いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

5 徳島大学基金プロジェクトサイトを公開しています

徳島大学では、本学の財政基盤強化に向けて徳島大学基金を設置し、税制優遇等を受けることができる様々なプロジェクトを推進しています。プロジェクトサイトでは、基金を活用して取り組むプロジェクトのご紹介や、実施報告、ご厚志をいただいた寄附者様からのあたたかいメッセージなどのご紹介も行っております。

今後も徳島大学へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

徳島大学基金
プロジェクトサイト



徳島大学公式SNSと各種サイトのご案内

公式SNSでは、徳島大学の活動情報をいち早くみなさまにお届けしています。学生生活や入試情報、最新の研究をはじめ、日々の何気ないキャンパス風景などは、学生広報スタッフも記事を掲載し、活躍しておりますので、ぜひ、応援してください。

徳島大学公式
X



徳島大学びざん会
Facebook



徳島大学びざん会



2024徳島大学
プロモーションビデオ



事務局だより

●助成事業の申し込みについて

助成事業の要項に該当する事業をご計画の会員がおられましたら、お申し込みください。P35の申請書をコピーしてお使いください。事務局にご連絡いただければ、様式（Word形式）をお送りします。お問い合わせ・お申し込みについては事務局までお願いいたします。

●異動届のお願い

会員相互の親睦等同窓会活動に、また、会報のお届けにと名簿は、渭水会にとって、重要な財産のひとつです。名簿の整備・管理には、鋭意努力しておりますが会員の皆様方のご協力が不可欠です。

現在、転居等により会報をお届けできていない会員も多数おられます。お手数ですが異動等ございましたらその都度事務局までお知らせいただければ幸いです。

会員数も膨大になり同姓同名の会員もおられます。誤記を避けるためにも、卒業（修了）年、課程（学科）、専攻（コース）、旧姓を記載いただき、できるだけ文書・ファックス・メールにてお知らせくださいますようお願いいたします。

●終身会員募集中！会費がお安くなりました

渭水会は昭和54年入学生より終身会費制になりましたが、まだご存じない方がおられます。このたび終身会費を改定し、気軽に入会できる価格となりました。終身会員には卒業生や大学の情報満載の会報

終身会費納付額(2023年6月改定)

卒業（修了）年	納付額
昭和45年以前	1,000円
46～51	3,000円
52～57	5,000円

郵便振替口座番号 01610-1-21392
加入者名 徳島大学渭水会

が郵送されます。同窓会の折に、ぜひ終身会員になってくださるようお勧めいただければ幸いです。

なお、会報がお手元に届いている方は、既に終身会員です。ご自分が終身会員かどうかわからない方は、事務局までお問い合わせください。

渭水会事務局

事務局は総合科学部1号館北棟1階入り口すぐ（部屋番号1N01）です。

業務時間および連絡方法は、以下の通りです。

時間／水曜日 13：30～17：00

（祝祭日および大学の休業日は除く）

TEL 088-656-7293（月～金 10：00～17：00）

FAX 088-679-8485

E-mail info@isuikai.jp

URL <https://www.isuikai.jp>

編・集・後・記

●徳島大学総合科学部創立150周年記念イベントの日が近づいてきました。10月19日は記念式典、講演会、祝賀会と記念事業が目白押し。卒業生の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

●おかげさまで渭水会オリジナルグッズ第1弾が完売。第2弾は、お酒落で使い勝手のよいメモ帳と一筆箋、そして持ってるだけで気分が上がりそうなマカロン付箋の3種を制作しました。10月19日の記念イベントで

販売しますが、渭水会会員には先行販売です。なお、制作経費を除いた売上は総合科学部に寄附いたします。



●渭水会より寄贈するモニュメントの制作も急ピッチで進んでいます。写真は制作者の武田亜希子さんらと設置場所を視察中のひとコマ。1号館南の緑地に設置し、10月19日に序幕式を行います。会報でのお披露目は来年の54号で。どうぞ楽しみにお待ちください。

発行所／徳島大学渭水会・〒770-8502 徳島市南常三島1丁目・徳島大学総合科学部内・TEL 088-656-7293 FAX 088-679-8485

印刷所／株式会社坂東印刷・〒776-0001 徳島県吉野川市鴨島町牛島3043・TEL 0883-24-2234

発行日／2024年（令和6年）9月1日



ユーカリの花(総合科学部キャンパスにて)



渭水会